

美原区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称				実施主体			
美原区読書習慣形成事業				美原区役所企画総務課			
事業目的		事業効果		活動指標	R3	R4	R5
子どもの読書習慣の形成に向け、子どもが本に触れる機会を増やすことで、区域の読書環境を整備する。		子どもが少しの時間でも本を手にとることのできる場を身近に設けることで、本を読むことの楽しさを知り、ひいては読書習慣が身につくことが期待できる。 家庭にある本の提供を区民に協力いただき、区域の読書環境を整備することで、改めて読書の大切さが広く区内に浸透することが期待できる。		収集した本の数	1,933冊	1,601冊	1,465冊
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
○	美原区教育・健全育成会議の提言に基づいて実施した事業であり、美原区ビジョン2025の基本方針3に掲げている、みんなが参画し主体的に地域課題(区内に書店がなかった)を解決するための事業でもある。	◎	市民から寄贈してもらった本を子どもに読んでもらう美原まちなか文庫を維持させるには、市民の協力が必要である。また、本の回収においては自治会や地域の関係団体、大型商業施設の協力を得ている。	◎	美原まちなか文庫は子どもが本に触れられる身近な場所として区内外から注目されている。 新たに子ども連れが多いカフェのキッズスペース内にまちなか文庫を設置した。設置時や本の入れ替え時はSNSで投稿する等、区外にも美原区の取組を発信できている。	◎	限られた冊数の中、各文庫に置いてある本を、年2回、ローテーションしている。また、各文庫の担当者から聞き取りを行い、子どもの興味関心に基づく配架を実施している。
⑤自立発展性		総合評価					
△	美原まちなか文庫は区内10か所に設置しており、寄贈ボックスは美原区内の地域会館にも設置しているため、地域の協力を得ながら、行政が中心となって全体を取りまとめる必要がある。	◎	市民からの本の寄贈により運営する美原まちなか文庫は開始してから7年目となったが、令和5年度も約1,400冊の本が集まり、累計冊数は1万2千冊に到達した。また、今年度は新たに飲食店に美原まちなか文庫を設置することができ、本の貸出・返却等の利便性が増した。				
今後の方向性(課題、改善提案等)							
拡充 継続 見直し 廃止	設置場所が10か所となり、各文庫の蔵書数の調整や興味関心に基づく本の配架など改善を進めていく必要がある。 また、何度も読まれたことにより汚れ・破れなど状態が悪くなった本が増加し、配架できる蔵書数が減少している。市民等に対して引き続き本の寄贈を呼び掛けながら、多くの子どもに美原まちなか文庫を利用してもらえるようにPRしていく。						